

交通空白地帯を解消

有償ボランティアバス 運行始まる

鳥取

鳥取市の大郷、御熊、
内海中地区の住民がボ
ランティアで運行する
「有償ボランティアバ
ス」の運行開始式が九
日、同市御熊で行われ
た。県内でも先進的な
取り組みで、竹内功鳥
取市長や地域住民ら約
五十人が運行開始を喜
び、併せて安全と継続
運行を誓った。

バスは大郷、御熊、
内海中地区で組織する
NPO法人OMU（佐
々木昌彦理事長）が運
行する。同地区はバス
が運行されない交通空
白地帯。車の運転がで
きないお年寄りら交通

弱者の生活支援を目的
に、二〇〇六年から勉

強会や先進地の視察を
行うなど、二年半をか
けて本運行にこぎつけ
た。

NPOの運営は県内
では倉吉市に次いで二
番目。運行開始式では
佐々木理事長が「皆さ
んの協力でスタートに
立つことができました。壁
を乗り越えて一歩一歩
進んで行きたい」と決
意を込めたあいさつ。

来賓の竹内市長が事業
開始を祝い、事業発展
のため今後も支援して
いくことを約束した。

この後、関係者がテ
ープカット。出席者の
拍手の中、八人が乗っ
たバスが発した。利
用者の山根とみ子さん
（〇〇）は「家族の車で通
院していたが、便利に
なります。利用させてもら
います」と大歓迎だっ
た。

ボランティアバスは
八人乗りミニバン二台
で運行。十五人がボラ
ンティアで運転する。
御熊を起点に辛川―大
畑―松原バス停など
（毎週月、水、金曜日）
と内海中―白兔橋バス
停―末恒小学校―末恒
駅―医療センターなど
（同火、木、金曜日）
の二コースで一日三便
を運行する。料金は一
回大人二百円、小学生
百円。



テープカットをして有償ボランティアバスの
運行開始を祝う関係者＝9日、鳥取市御熊